

高校英語のオーラルコミュニケーションIにおいて自分の意見や考えを発信できる指導の工夫 ～「個人フラッシュカード」と「場面設定の工夫」を通して～

外国語班 中村 敦子 (高等学校教諭)

目指す生徒像

学習した英語を用いて、自分の意見や考えを発信できる生徒の育成

生徒の現状

英語を話せるようになりたいという希望はもっているが、英語という教科に対して非常に強い苦手意識を持っている。

原因

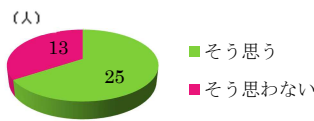
学習習慣が確立されていないため習得した語彙が少なく、さらにその語彙を活用し「自分の意見や考えを発信できた」という自信がもてない。

解決の手だてと結果

STEP 1 「個人フラッシュカード」を用いて、語彙力の定着を図る。

(「個人フラッシュカード」の使い方)
カードをリングから外し、手持ち5枚ずつできるだけ早くフラッシュする。何度もフラッシュするうちに自然と覚えたカードから抜いていき、その分の新しいカードを加えて続けていく。

Q 「個人フラッシュカード」で語彙力が上がったか

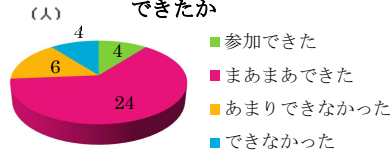


(生徒の感想)
「個人フラッシュカード」を使うようになってからは、別に覚えようとしてないのに、何となく頭に入ってきて、スペルや読み方もわかるようになった。単語練習よりもたくさんの単語が覚えられる。

STEP 2 習得した単語を土台にQ&Aや会話練習の「チャットシート」を使い、コミュニケーション活動を繰り返し行い、「話す」ことに自信をもたせる。

(学習活動例)
基本ダイアログのリスニングやICTを用いてクイズ。インタビュー形式のペアワークでは「チャットシート」を用いて、学習すべき表現や語彙に関心をもたせる。

Q 授業中英語でのQ&Aやペアワークでは、自信をもって参加できたか

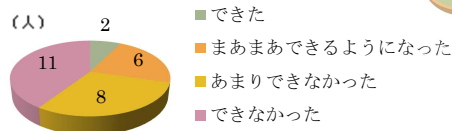


(生徒の感想)
スピーキング活動は、友達と話せて楽しく、覚えた単語を自分の言葉として使うことができた！

STEP 3 現実味のある場面やトピックを設定し、自分の意見や考えを、学習した英語の表現などを用いて、ペアや小グループ内で発表する。

(学習活動例)
クイズやChain Talkと呼ばれる言語活動を段階的に取り入れていく。グループ内での発表に向けてワークシートを作成させる。

Q 少人数グループ内で英語で発表できたか



(生徒の感想)
最終的にはスラスラと言えるし、先生や友達が話している内容もわかるのでとても楽しく感じる。自信がついた。

成果

- * 「個人フラッシュカード」は語彙の定着につながった。
- * 学習した語彙を用いて英会話を楽しむことができ、生徒の自信につながった。

課題

- * 「個人フラッシュカード」は自分の語彙レベルに合っていないと効果が実感できない。
- * コミュニケーション活動においては、クラスの雰囲気作りやペアの組み合わせについても配慮が必要になる。